

2022年7月22日

Institution for a Global Society 株式会社

三重県高校生のグローバル・リーダー育成プログラムに向けた オンライン データサイエンス講座を、IGSが7月より開始

-三重県立高等学校7校の高校生22名が統計検定2級レベル習得に挑戦-

データサイエンスを活用した探究・STEAM教育の教材や、教育データの取得・分析を行うInstitution for a Global Society 株式会社(本社 東京都渋谷区、代表取締役社長 福原 正大、以下 IGS)は、三重県独自の取り組みである「次代を担うグローバル・リーダー育成プログラム」に挑戦する高校生22名に向けて、データサイエンス講座(オンライン)を、7月9日(土)より開始いたしました。

デジタル社会の加速に伴い、文系理系問わず実践的なデータサイエンスの知識・スキルの習得が求められる中、データサイエンス講座では、動画演習や個人・グループ課題を通して、大学1・2年生の基礎過程程度(統計検定2級程度)のデータサイエンススキルを約6か月間で身につけることを目指します。

7月9日(土)のオリエンテーションでは、生徒から「数学は苦手だが、データを活用できるようになれば、将来役に立つはずだから頑張りたい」「テストでは点数が高くないが、数学が好きだから頑張りたい」など、将来を見据えた前向きな声が聞かれました。7月30日(土)の第2回講座では、1か月間取り組まれた事前課題のグループ発表や講師による解説を行います。(取材可能)



(第1回データサイエンス講座 オリエンテーションの様子)

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

IGS株式会社 広報室(佐藤璃子) 携帯:070-1459-8567 Email:r.sato@i-globalsociety.com

■何故グローバル・リーダーに、データサイエンスが必要なのか

○2050年に求められる能力は、データサイエンスで身につけることができる

経済産業省が2022年5月に発表した「未来人材ビジョン」では、2050年に求められる能力は、2015年に求められる能力から大きく変わり、「問題発見力」「的確な予測」「的確な決定」「情報収集」などが一層求められるとされています。

これらの能力は、データサイエンスを学ぶ過程で身につけることができます。一般社団法人データサイエンティスト協会によると、データサイエンティストには「ビジネス力」「データサイエンス力」「データエンジニアリング力」という三つのスキルが求められるとされています。

データサイエンスは、データを分析するだけではありません。課題に対して探究しながらデータを活用していくことで、これらの力を身につけることができます。

現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、
将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性*	1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル：口頭	1.08
基盤スキル*	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
⋮	⋮	⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル
※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。
(出所) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究Ⅱ」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”, Hasan Bakhshi et al., “The future of skills: Employment in 2030”等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。 20

(上：経済産業省「未来人材ビジョン」より抜粋)

○三重県教育委員会 高校教育課 課長補佐兼班長 谷奥茂氏のコメント（導入理由）

本県では、探究活動を推進するため、SSH指定校を中心に、探究活動に力を入れている学校で構成する「探究コンソーシアム」において、課題研究の指導方法や評価方法等について研究協議を行っています。探究のプロセスのうち、特に、情報の収集、整理・分析の指導方法等にかかる研究が必要と捉えており、高等学校での学びにとどまらない、データを扱う力や視点の持ち方等を生徒に育成することを目的に、「データサイエンス講座」を企業に依頼することとしました。また、生徒の資質・能力の変容を把握することで、本県における課題研究の質の向上につなげていきたいと考えています。

■データサイエンス講座について

○講座の構成

本講座は、個人やグループで課題に取り組み、アウトプットを繰り返すことで、ビジネスでも役立つ統計基礎レベルを身につけることを目的としています。個人学習と月に1回の集合研修を5回繰り返します。6か月間の講座で、全てオンラインで完結可能です。

インプット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 動画コンテンツ視聴 <ul style="list-style-type: none"> • データ分析を行う上で必要な統計の基礎的な知識を学びます ✓ 確認テスト <ul style="list-style-type: none"> • コンテンツごとの学習内容の理解度を確認し、定着を促します
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人課題・グループワーク <ul style="list-style-type: none"> • 実生活やビジネスの事例を用いた統計手法のトレーニングをおこないます ✓ 集合研修 <ul style="list-style-type: none"> • 事前課題内容の報告およびレビューをおこないます
相互学習、評価	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Q&A交流掲示板 <ul style="list-style-type: none"> • 疑問点を解消、受講者同士教え合うことができます ✓ Ai GROWによる相互評価 <ul style="list-style-type: none"> • グループワークのメンバーで相互評価をし、自分の強みを把握できます

○ポイント

1) データの重要性・有効性を体感し、大学1・2年生の教養数学を高校生で先取り

個人・グループ課題で、実践的なデータサイエンススキルを習得することで、未知の物事に対し、データを元に予測・決断する重要性を教えます。カリキュラムの後半では実際にデータを触り、データをどのように世の中に役立てることができるのか、体感できる設計となっております。

2) 先生の負担なく、生徒が学習可能

基礎知識は動画で学び、確認テストを行い、知識の定着を促します。疑問はQ&A交流掲示板やオフィスアワーで解消することができるため、先生のご負担なく、生徒が学ぶことができます。

学習用動画の視聴



➔

動画確認テスト



※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

IGS株式会社 広報室 (佐藤璃子) 携帯 : 070-1459-8567 Email : r.sato@i-globalociety.com

3) 思考力やコミュニケーション能力などの伸びも計測可能

新学習指導要領で重視される「学力以外の資質・能力（思考力・表現力・判断力など）」は、従来の知識を問うテストでは測りづらく、評価に苦慮される先生が増えています。評価ツール「Ai GROW（アイ・グロー）」は、これらの能力をグループワークのメンバーで互いの能力を評価し、評価に関わるバイアスをAIで補正するため、自分の強みを客観的に把握することができます。

Ai GROW 生徒の資質・能力を、AIを活用して可視化する評価ツール



生徒同士の相互評価にAIで補正を加えることで、
 忖度や評価の甘辛などの「評価のバイアス」を極小化。

■ ご取材イメージ

- ・ どんな生徒が参加しているのか
 - 男子生徒2名、女子生徒20名
 - データサイエンスや統計は初心者。ほぼ全員が文系を希望しており、数学に苦手意識を持つ方も多いが、将来役に立つはずなので頑張りたいという前向きな生徒さんが多いです。
- ・ 取材可能内容
 - 生徒への取材
 - 教育委員会、データサイエンス講師（IGS 取締役 事業・開発統括 中里忍）への取材

■ 三重県独自事業「次代を担うグローバル・リーダー育成プログラム」について

本プログラムは、三重県立高等学校7校の高校生22名が応募し、学校の枠を越えて結成したチーム「Mie Lab（ミエラボ）」に対して、2022年4月から約9か月間実施されます。SDGs、英語、データサイエンスについて学び、オンライン国際交流をした上で、自ら考え、他者と協働する課題解決型の探究活動を行います。

更に、本プログラムを通して育成された生徒の資質・能力は、IGSが提供する、AIを活用して客観的に「学力以外の資質・能力」を可視化する評価ツール「Ai GROW（アイ・グロー）」で計測します。また、探究活動の成果は国等の各種機関が実施するコンテストで発表予定です。

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

IGS株式会社 広報室（佐藤璃子） 携帯：070-1459-8567 Email：r.sato@i-globalociety.com

■Institution for a Global Society (IGS) 株式会社 会社概要

「分断なき持続可能な社会を実現するための手段を提供する」を企業パーパスに掲げるEdTech/HRTech企業。2021年12月29日に東証マザーズ市場（現・グロース市場）に上場。

所在地：〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-11-2 4F

設立：2010年5月

資本金：388百万円

事業内容：AIを活用した人材評価プラットフォームを企業や学校に提供

コーポレートサイト：<https://www.i-globalsociety.com/>